

< 介護・医療連携推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	こぶし 24 時間ケアサービスステーション美沢
所在地	(〒 940 - 0856) 新潟県長岡市美沢 4 丁目 2 1 1 番地 6		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24 時間 365 日営業。住み慣れた地域の中で築き上げた暮らしを支えていく。
情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2022 年 9 月 30 日	従業者等自己評価 実施人数	(9) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	---------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】 新型コロナウイルス感染症の再拡大を受け、推進会議を開催せず書面にて対応とした。

実施予定日	西暦 2023 年 1 月 19 日	メンバー人数 (合計)	(17) 人	※自事業所職員を含む
照会人数 (内訳)	■自事業所職員 (2人) ■市町村職員 (1人) ■地域包括支援センター職員 (1人) ■地域住民の代表者 (1人) ■利用者 (1人) ■利用者の家族 (1人) ■知見を有する者 (2人) ■医療従事者 (6人) ■その他 (2人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ より良いサービス提供につながるよう、理念や業務目標を理解し取り組み、専門的知識と技術習得のため研修を継続する。 ・ 推進会議や担当者会議への職員参加により、知識向上やサービスの改善や課題を考える機会を作る。 ・ 災害や感染症によるサービス提供が継続できるよう計画を作り、職員周知とシミュレーションを実施し対応できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理念については月 1 回のミーティングで読み合わせを行い理解を深めた。 ・ 専門的知識と技術習得のための研修はコロナ禍である為リモートで行った。 ・ 推進会議はコロナ禍により 2 回とも書面開催であった。今年度より中間報告として書面での状況報告を行い更に美沢ヘルパーステーションの取り組みを理解してもらった。 ・ 月 1 回のミーティングで研修として推進会議についての学習を行い、進捗状況を職員に発信した。 ・ 担当者会議もコロナ禍により照会が多く職員参加の機会は無かった。照会については計画作成者以外の職員から記入してもらいサービスの改善や課題を考える機会を作った。 ・ 災害や感染症のBCPに対する職員への周知、感染症において机上訓練を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推進会議や担当者会議において管理者、サービス提供責任者だけでなく全員で関わり意識、技術を向上させている。 ・ 専門技術の向上のために、定期的なアセスメントなどを指導する機会にするなど工夫して取り組んでいる。 ・ BCP作成だけでなく、実際に訓練も行われており、しっかり体制が構築されている。 ・ シミュレーションして課題があれば検討・改善を行って欲しい。 	
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特性と予測できる変化の知識を得て、専門的観点や観察力の向上に努めていく。 ・ 小さな気づきや予測できる危険を日ごろから意識しヒヤリハットにあげて、課題と 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒヤリハットを意識してあげて事故防止としていたが内服事故が続いてしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気になった事などは積極的に意見を求めて欲しい。

	～21)	対策検討しより良いサービス向上につながるようにする。	これを踏まえて月1回のミーティングにおいて研修として事故対策の確認を行い同様の事が起こらない様にしている。 ・小さな気づきを職員間で共有する為フェニックスネットに「思いやりボックス」という入力項目を設けた。	・利用者の日常生活の変化や気づきは大変参考になる。専門性を生かした連携支援ができています。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	・多職種・多機関、利用者自身の取り巻く環境支援とも情報共有し連携して目標達成に向けて対応していく。 ・その人らしい生活が継続できるようより良いサービス提供を目指して、活用できるインフォーマル支援とも連携していく。	サービス事業者だけではなく利用者自身の取り巻く環境から支援に協力して下さる方々(配食弁当・民生委員・近隣住民)と連携して在宅生活を支えている。 受診や買い物の同行支援など利用者の生活をサポートするサービスを保険外サービスを利用している。	地域との連携の難しさを痛感する。 現場で肌で感じている事やインフォーマルサービスの活用等推進会議でも積極的にアピールすると良い。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)	・定期随時サービスが在宅サービスの選択肢の一つとして定着できて身近に感じられるよう、広報誌やパンフレット等を活用し発信していく。 ・地域の集会にも参加して地域の方にもわかりやすい方法を工夫し情報発信していく。	・地域の方々に定期的にサポートセンター美沢の広報誌を作成し回覧版として見て頂いている。 ・地域のお茶の間を通して定期随時サービスの情報を発信予定であったが大雪で中止になった。	広報活動は積極的とは言えない。 訪問時に近隣住民に挨拶する等日々の行動が理解を深めていると感じる。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)		受容傾聴の姿勢を大切にして、その人を知り、お一人お一人に寄り添ったケアを続けてその人らしい安心した在宅生活が継続出来るよう支援する。	・定期随時サービスを導入してから状態の改善で自立した生活の目標を達成した方もいる。サービス内容が本人に合っているか常にアセスメントしながら提供しよう心掛けた。	・今後も自立支援に向けて取り組んで欲しい。 ・利用者が安心して生活が送れるようサービスを継続して欲しい。 ・定期随時の利用により施設に入らなくてもそれと同等の安心感がある生活の維持が

		<ul style="list-style-type: none"> ・満足度アンケートを行い88%の満足度であったが100%に近づくようにしていきたい。 	出来ている。看護の利用が増すと安心感も増えるのではないかな。
--	--	--	--------------------------------

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目		評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議や担当者会議において管理者、サービス提供責任者だけでなく全員で関わり意識、技術を向上させている。 ・専門技術の向上のために、定期的なアセスメントなどを指導する機会にするなど工夫して取り組んでいる。 ・BCP作成だけでなく、実際に訓練も行われており、しっかり体制が構築されている。 <p>シュミレーションして課題があれば検討・改善を行って欲しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議や個別評価についての周知、学習を行い更に個人の資質を上げていく。 ・アセスメントやモニタリングを指導することで専門技術の向上を目指す。 ・感染症のBCPに沿ったシュミレーションを行う。 ・各利用者の災害時の避難行動について検討していく。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	<ul style="list-style-type: none"> ・気になった事などは積極的に意見を求めて欲しい。 ・利用者の日常生活の変化や気づきは大変参考になる。専門性を生かした連携支援ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェニックスネットやサービス間で利用者の情報共有を行い、お互いの専門性を生かした支援をすすめる。

	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	地域との連携の難しさを痛感する。 現場で肌で感じている事やインフォーマルサービスの活用等推進 会議でも積極的にアピールすると良い	・インフォーマルサービス資源について掘り起こしを行い、積極 的な利用促進をすすめる。
	3. 誰でも安心して暮らせる まちづくりへの参画(評価項 目 28～32)	広報活動は積極的とは言えない。 訪問時に近隣住民に挨拶する等日々の行動が理解を深めていると 感じる。	・広報活動について広報誌以外の方法を模索し、定期随時サービ スの周知に努めていく。
III. 結果評価 (評価項目 33～34)		<ul style="list-style-type: none"> ・今後も自立支援に向けて取り組んで欲しい。 ・利用者が安心して生活が送れるようサービスを継続して欲し い。 ・定期随時の利用により施設に入らなくてもそれと同等の安心感 がある生活の維持が出来ている。看護の利用が増すと安心感も増 えるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期随時の利用で在宅生活が安心して送れるようなサービスを行 い質の水準を維持していく。 ・訪問看護の連携を勧めることで利用者が安心して生活できるよ うな支援を行う。

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します